

学校だより

# 眺洋山

5月号



2020年（令和2年）5月7日  
福山市立常石小学校

めざす子ども像 「自らまなぶ子 かかわる子 たくましい子」



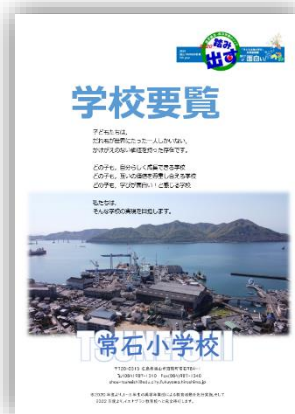
ああっ！つながった～！！



# 今年度の学校要覧を作成しました。

今年度の常石小学校の学校要覧を作成しました。学校要覧とは、学校の教育方針の概要等をまとめた小冊子のことです。本来であれば、4月のPTA総会や学級懇談会で説明させていただいたうえでお配りしたかったのですが、休校等の事情により難しくなりましたので、学校だよりと一緒にお届けさせていただくことにしました。

この一年、子どもたちにどのような力をつけたいのか、どのような教育活動をおこなっていくのかを書いておきます。ぜひご一読いただければと思います。



## 異学年のクラスがスタート！2, 3年生大活躍！

今年度から1年生から3年生までの異学年クラスがスタートしました。

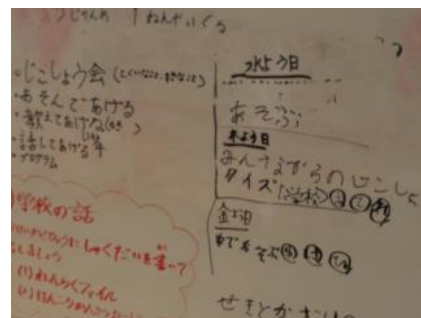
異学年クラスの良さは、年長者が年少者を助けたり、教えたりということがより日常的に行われる点にあります。異学年クラスがスタートした今年度、これまで子どもたちが困らないように教師が先手を打ってやってきたことを見直し、子どもたちにゆだねてみることにしました。特に1年生への手立ては、例年、担任が手取り足取りといった感じでやってきていたところですが、ここを思い切って2, 3年生に任せてみました。

すると、子どもたちは自分たちで1年生をどう迎えるのか、たくさんのアイデアを出し、実行してくれました。また、先生が名前を書いてあげなくとも、気付いた2, 3年生が1年生のことを考えて、自分たちで書いてくれました。お道具箱の入れ方やロッカーの使い方だってそう。2, 3年生が1年生に教えている姿がいろんなところで見られました。

給食も2, 3年生が進んで準備をしていました。きっと1年生はそれを見ながら自然に給食の準備の仕方を学んでいるはず。あと数週間もすれば、少しのフォローで1年生も加わったの準備ができることと思います。

子どもたちは、しっかり自分達でできる力を持っている、そんなことを感じることでできたスタートとなりました。

残念ながらコロナウイルス対策のため、1週間で休校になってしまいましたが、子どもたちが戻ってきたら、さらに異学年のよさが発揮されていくと思います。



2, 3年生の計画したお迎え案



2, 3年生が書いた1年生の名前



1年生に教える3年生

# 教室を飛び出そう！体験や遊びを通して学ぼう！

4月の初め、学びって教室の中だけじゃないと思えるエピソードに出会いました。

のびっこ学級の子もたちが、生き物係を作ることになりました。すると、いてもたってもいられなくなったのでしょうか、「アリジゴク（カゲロウの幼虫）が飼いたい！」と言い出し、教室を飛び出して校庭でアリジゴク探しが始まりました。担任は「アリジゴクなんて学校にいるの？」と半信半疑ですが、すでに子どもたちはちゃんとどこにいるのか知っている様子。早々とアリジゴクの巣を見つけ、どうやって捕まえるか相談です。とりあえずアリジゴクというくらいだからアリを捕まえて入れてみると出てくるのではないかということになりました。

ところがアリを入れてみても一向に出てくる気配はありません。我慢しきれず巣を掘ってみることに。すると出てきたのは死んだカゲロウの幼虫。「アリジゴク、寿命で死んでたんだね・・・。」と一人の子が言いました。すると、もう一人の子が、「いや、寿命じゃないよ、だってまだ幼虫だもん。この後、さなぎになって成虫になるはずだったんだから寿命って言い方はおかしくない？」と反論。「でも死んだところが寿命っていうんじゃない？」「じゃあ寿命ってなに？」子どもたちの議論は幼虫の死をきっかけにどんどん盛り上がっていきました。



アリジゴクの巣を掘ってみると…

これって教科で考えれば、理科の生物の生態の学習内容ですし、後半は道徳の「命」に関する価値項目の内容ともいえます。どちらも教科書を使って先生に教えてもらって学ぶことのできる内容です。でもきっと、教科書を読んで先生が教えるような授業をしていたらここまで盛り上がることはなかったでしょう。子どもたちが教室を飛び出し実際に体験したことで、教科を超えた学びが生まれ、広がっていった瞬間でした。

子どもたちは、体験や遊びを通して学ぶ力を持っています。私たち教員は、子どもたちの主体性を大切にしながら、体験や遊びの中に学びが生まれる瞬間を見逃さず、もっと知りたいという意欲を引き出したり、探究につなげたり、議論を深める問いを投げかけたりする、そんな学びのファシリテーターであり、サポーターでありたいと思っています。

## 【動きの自由】

本当の意味での動きの自由だ！すなわち、子どもたちは教室内を、それどころか、学校内を自由に動く。(中略) 動くことは、成長の過程にある子どもの身体にとっては食べ物と同じであり、それをさえぎることは、子どもの健康を害することにほかならない。

ペーター・ペーターセン『小さなイエナプラン』より



# 19名の1年生 入学おめでとう！



入学した子どもたち



先生紹介



堂々とした児童代表お迎えの言葉



入学式直後に絵本の読み聞かせ。みんな違って当たり前，そのままのあなたでいいんだよ，というメッセージを込めました。



いただいた多くのお祝いメッセージ

## 4月1週目のスナップ写真

